

2023年度



事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-6
大阪大学大学院法学研究科内
TEL&FAX.06-6850-5198
E-mail ishibashi@seiunkai.net
https://www.seiunkai.net/



青雲会ホームページ

2023年4月26日

編集・発行

青雲会(大阪大学法学部同窓会)

会長 福田 健次

青雲会 会報

印刷 株式会社 絆コーポレーション

2023年度

青雲会総会のご案内

講演会のテーマ

「大阪大学の現状と課題」

【講師】

大阪大学名誉教授・微研財団特任顧問

三成 賢次 氏(28期)

日時

2023年7月15日(土)

午前10:30開会

10時30分～11時15分 総会

11時20分～12時20分 講演会

12時30分～14時30分 懇親会

会費

一般 **10,000円**

卒業後5年以内:4,000円、

学生(未入会):2,000円、学生(入会済):1,000円

ご出席の方は、会費の前納をもって申込みとさせていただきます。

同封の払込み用紙をご利用ください。

または、青雲会ホームページ会員専用サイトでクレジットカード払いもご利用いただけます。

■払込み期限 6月23日(金) [必着]

会場

大阪新阪急ホテル

紫の間(総会議事・講演会・懇親会)

〒530-8310 大阪市北区芝田1-1-35

TEL 06-6372-6510

JR「大阪駅」、阪急・地下鉄「梅田駅」から徒歩すぐ。

TEL 06-6372-5101(ホテル代表)



大阪大学名誉教授・微研財団特任顧問

みつなり けんじ

三成 賢次 氏

<略歴>

1955(昭和30)年7月神戸生まれ。大阪大学法学部、同法学研究科博士課程を経て、大阪大学博士(法学)を取得。大阪大学法学部の助手、助教授、教授、学部長、大阪大学理事・副学長、日本学術会議会員等を務め、2023年4月から現職。西洋法史学を中心に近代ドイツの地方自治や裁判制度、法学史に関する研究を行い、単著・共編著として『法・地域・都市—近代ドイツ地方自治の歴史的展開』、『地方自治大系1』、『地方分権改革』、『法制史入門』など、共訳著として『ガンス法哲学講義1832/33 自然法と普遍法史』など多数発表。



青雲会会長 ご挨拶

就任のご挨拶

前会長西尾公一様から、青雲会会長を引き継ぎました29期の福田健次です。

私は、大学を2年留年し、退路を断つべく卒業した1981年(昭和56年)秋に、やっと司法試験に合格し、1984年(昭和59年)に大阪弁護士会へ入会し、今年弁護士生活40年目を迎えます。

大阪府立天王寺高校出身ですが、同校の先輩亡き国井和郎教授(民法)の強力なお勧めにより、司法試験の受験を決意し、何とか合格しました。そして、入所した事務所が堂島法律事務所、創設者のお一人で本学の大先輩的場悠紀弁護士とのご縁からでした。現在の私の存在は、大阪大学法学部なくして、語る事ができません。昨年度(2022年(令和4年))、なぜか、大阪弁護士会会長に就任し、一年間職務を全うしました(なお、本学出身の同会会長は、大先輩鎌倉利行先生以来のことでした)。このような私に、西尾前会長から、次期会長のお声がかかりました。これまで法曹界では、いろいろと世話役を務めてまいりましたが、青雲会には全くと言っていいほど顔を出しておらず、私のような者でいいのかと悩みましたが、元来頼まれるとイヤと言えない性格とこれまでお世話になった大学への恩返し気持ちから、お引き受けすることにいたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西尾前会長からは、優秀な副会長が支えてくれるのでという温かいお言葉をいただきました。頼りになる若い副会長とともに、青雲会の活動がより活発になるよう、できるだけことはさせていただきます。ここまで私の自己紹介のみですが、青雲会の今年度の方針につきましては、副会長の皆さんのご指導のもと、少し勉強をして発表させていただきますので、お待ちいただきますように。アフターコロナの時代におきまして、どのようにして人と人とのつながりを保って、青雲会の活動を活性化させていくか、試行錯誤しながら進めてまいります。

これまで、私なりに、法学研究科、高等司法研究科と連携を図ってまいりましたが、決して十分とは言えません。さまざまな人材がおられる青雲会会員が力を合わせて、大学と在校生を十分に支援する同窓会となるよう、新役員の方々と一歩ずつ進んでいきたいと思っております。今後とも青雲会の活動に、会員の皆様のより一層のご理解とご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



会長 福田 健次 (29期)

青雲会名誉会長 ご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長
大阪大学法学部長

武田 邦宣

この4月に法学研究科長・法学部長を拝命しました武田邦宣と申します。青雲会会員の皆様には、日頃より法学研究科・法学部の諸活動にお力添えを賜りまして、誠に有難うございます。コロナ禍による制限を余儀なくされた社会活動、経済活動が徐々に緩和されつつありますが、法学研究科・法学部においても、昨年度末には久しぶりに対面で卒業式等を開催することができました。また、新年度も対面で入学式、ご家族懇談会を実施致しました。いずれにおいても新旧の青雲会会長それぞれにご出席を賜り、後輩の皆さんに温かい激励の言葉をいただきました。

法学研究科長・法学部長の任期中、私は、卒業生また修了生が「大阪大学で学べてよかった」と思えるように、力を尽くしたいと考えております。人生いつからでもチャレンジできる、それはその通りなのですが、生き方を決定する最も広い選択肢が与えられるのは学生時代であると思います。学生の皆さんがそれぞれにとってベストな選択ができるよう、教育活動に取り組む所存です。また、学生の皆さんに対して、積極的に青雲会のネットワークに参加して、そのネットワークを活かすよう勧めたいと思っております。人とのつながりなしに人生の選択肢が広がることはありません。青雲会会員の皆様におかれましては、在学生会員に温かいご指導、ご支援を賜れば幸いに存じます。

国際公共政策学科長 ご挨拶

今年4月に大学院国際公共政策研究科長および法学部国際公共政策学科長に就任いたしました。昨年度までは副学科長を務めておりましたが、青雲会の皆様にはいつもご支援を賜り、あらためて深く感謝申し上げます。

国際公共政策学科は2008年4月に開設され、2023年度入学の学生で第16期生となります。国際公共政策学科では法学、政治学、経済学を横断する学際的なかたちで、卒業後も官民間問わず、また一部大学院に進んだ者にも糧となる基本的な、そして最前線の学知を提供しております。既に卒業した第12期生までは、その経験を存分に活かし、国内外で大いに活躍しております。卒業後も生かせる不易流行の知の提供こそ、大学教育の使命だと実感している次第です。

国際公共政策学科には国際舞台で活躍したいという意欲の高い学生が多く、留学や現地での体験を希望して毎年多くが海外に渡航して参りました。しかしながら、コロナ禍の下、学生たちは海外に出ることがままならず、厳しい状態が続いておりました。一方、オンライン化が急速に進み、海外でのインターンや学会への参加なども、ある意味でこれまで以上に容易になっております。学生時代の貴重な学びの時間を無駄にしないよう、対面、オンライン双方で海外との交流を深める努力も継続していく所存です。

今後も新たな挑戦を厭わず、学生の能力を引き出す教育を行って参りますので、青雲会の皆様には引き続き何卒宜しくご支援賜れば幸いです。



国際公共政策学科長
中嶋 啓雄

高等司法研究科長 ご挨拶

昨年4月に高等司法研究科の研究科長を拝命し、今春から2年目の業務に入りました。この間も、青雲会の皆さまからは物心両面にわたる多大のご支援をいただきました。大変ありがたく存じます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

高等司法研究科は、法曹養成を使命とする法科大学院として、19年前に創設されました。以来、「新時代を担う、真のLegal Professionalsの育成」を教育理念に掲げて、法曹養成に努めて参りました。司法制度改革の一環として創設された法科大学院は、「司法試験という『点』」のみによる選抜ではなく、法学教育、司法試験、司法修習を有機的に連携させた『プロセス』としての法曹養成制度の中核を担う組織と位置づけられています。本研究科の教育理念は、この構想と軌を一にするものです。

しかしプロセスとしての法曹養成という構想は、司法試験至上主義からの異議申立てに絶えず晒されています。きれいごとは司法試験合格率を上げてから考えろというわけです。けれども、高等司法研究科は教育理念を単なる建前であると割り切る態度に挑戦し続けています。教育理念をないがしろにするところに展望はないと思うからです。このことは司法試験に合格したいと思って頑張る学生たちの期待に背くものでもありません。

そして青雲会の皆さまの期待にも応えられるよう一層努力いたします。変わらぬご支援のほど重ねてお願い申し上げます。



高等司法研究科長
松本 和彦 (36期)



就活懇談会風景



合格祝賀会風景

大阪大学法曹会

大阪大学法曹会は大阪大学を卒業して司法試験に合格した方と大学教員で構成されています。会員相互の資質向上と親睦を図り、さらに高等司法研究科学生に対して支援を行っています。

近年の司法試験は受験者数も合格者数ともに減少してきています。このような状況下でも受験生の努力や法曹会会員弁護士の支援等によって高等司法研究科からは51名の合格者、また法学部を卒業され消息が分かっている方だけでも18名の合格者を出しました。

2022年10月17日には感染症に万全の注意を払いながら大阪弁護士会館にて就活懇談会、合格祝賀会を開催し、多くの合格者や会員が集いました。

現在、法曹会では高等司法研究科後援基金を通じて下記の支援を行っています。

1. 法律文書錬成講座…弁護士アドバイザーによる法律文書の書き方指導
2. 修了生勉強会…未合格修了生に対する弁護士講師のグループ指導
3. 必要資金の援助…成績優秀者表彰、中野賞授与
4. 合格者に対する就職活動懇談会…2022年度は18名の合格者が参加

2022年度 総会報告

日時 2022年7月16日(土) 10時30分開会
場所 大阪新阪急ホテル 「花の間」
講演 テーマ「コロナ対策を振り返る」
講師 大阪大学感染症総合教育研究拠点
 特任教授 大竹 文雄氏

2022年度の青雲会総会は、7月16日に大阪新阪急ホテルで開催されました。当日は、ご来賓の中山勲名誉教授をはじめ、三成賢次副学長、瀧口剛法学部長、赤井伸郎国際公共政策学科長、松本和彦高等司法研究科長ほか多数現職教員の先生がたのご臨席のもと、参加者49名での開催となりました。残念ながら今回も懇親会は行われませんでした。が、久しぶりに同窓生が一堂に会した和やかな場となりました。

1 総会議事 (10:30-11:15)

西尾公一会長の開会の挨拶に続き、瀧口剛法学部長の祝辞をいただいたあと、西尾会長からの2021年度会務会計報告に続き会計監査報告がなされ(松本綾会計監事の報告を司会の坂川雄一副会長が代読)、いずれも承認を得ました。次に、2022年度事業計画案および予算案が提出され、いずれも承認を得ました。(詳しくは12ページをご覧ください。)そのあと、新幹事4名の紹介、高橋慶吉副会長(学内幹事)より大学の現状についての報告がありました。最後に、大阪大学共創機構の中村麻貴特任研究員より大学への寄付に対してのお礼の言葉が述べられました。



会場全景



西尾会長 挨拶



坂川副会長 会計報告



高橋副会長 大学現状報告

2 講演 (11:20-12:20)



講師 大竹文雄氏

突然のコロナ第7波の到来となってしまったタイミングで、大竹文雄先生より、政府のコロナ対応諸会議の委員として発生当初から政策決定の最前線に立たれたご経験を振り返りつつ、その中で得られた教訓についてユーモアを交えながら分かりやすくご講演頂きました。

国民への行動制限を呼びかけるメッセージに行動経済学の知見が活かされていること、政策決定における専門家の意見がワンボイス型からオプション提示型に変遷した背景、行動制限による感染防止と社会経済活動活性化のバランスについてのご意見等を直接お伺いできる貴重な機会となりました。

またEBPM(エビデンスに基づく政策決定)への誤解に関するご説明は、企業活動等他分野にも大変参考になるお話でした。最後に利他的行動は自利的行動より幸福度を高めるというお話があり、母校の活動支援活動のみならず同窓会運営へのエールを頂戴したと感じました。(30期 沖田 拓司)

2022年度 青雲懸賞論文受賞者決定

2022年度の青雲懸賞論文は、多数の応募の中から以下の6本が優秀論文として選ばれました。受賞者には表彰状と賞金が授与されました。また、2023年7月15日(土)開催の青雲会総会にご招待します。本年度も昨年度同様、部門別に分けて11月から募集を開始します。在学生の皆さんからのたくさんの応募をお待ちしています。



本年度応募件数

A部門15件
 B部門16件
 合計31件

A:法学部門

1席 法4年 佐久間 弓束(さくま ゆづか)
 「賃金債務不履行における二つの「帰責事由」
 —「休業命令の抗弁」とは—」

2席 法3年 平田 竜靖(ひらた りゅうせい)
 「環境団体訴訟の実現に向けた原告適格の拡大」

佳作 法2年 岩本 陽向(いわもと ひなた)
 「AI使用における民事上の責任」

B:政治学・経済学部門

1席

公4年 遠藤 瑞季(えんどう みずき)	公4年 佐藤 優樹(さとう ゆうき)
公3年 河村 直奈(かわむら なな)	公3年 関 瑛龍(かん えいりゅう)
公2年 菊池 駿平(きくち しゅんぺい)	公2年 北川 夏野(きたがわ かの)
公2年 田代 遼真(たしろ とうま)	公2年 戸田 温花(とだ はるか)
公2年 堀口 怜未(ほりぐち れみ)	

「管理不全空き家が地価に与える影響および発生要因について」

2席 公4年 池内 里桜(いけうち りお)
 「文化的イベントが人種的不平等に対する信念に与える影響
 —トニー賞受賞に注目して—」

佳作 公4年 久保 知生(くぼ ともき)
 「夫の家事・育児時間が妻の就業に与える影響
 —テレワーク制度に注目した実証分析」

青雲キャリア支援基金事業

学生支援室長 福井 康太

2022年度「青雲キャリアチャレンジ賞」

青雲キャリア支援基金活用事業として、2017年度から、「青雲キャリアチャレンジ賞」を設けています。「青雲キャリアチャレンジ賞」は、在学中に課外で取り組み、キャリア形成に向けて優れた成果を上げた法学部生を表彰し、副賞を授与して、その成果を称えとともに、在学中のキャリア形成活動を促進することを狙ったものです。2021年度には2名の学生、2022年度には1名の学生が受賞しました。青雲キャリアチャレンジ賞が、今後、優れたキャリア形成活動の励みになるものとして広く認知されるよう、努めて参ります。



「コロナ明け」と学生支援

コロナ禍も始まってから3年ほどが過ぎました。授業はある程度教室で実施されるようになりましたが、「密」にならないようにする配慮から、定員に制限があったり、暑さ寒さに拘らず窓を開けて授業が行われたり、従来と異なる学生生活を強いられています。このような状況はまもなく解消されます。まだ混乱の残る中ですが、2022年度には、旧統一教会の問題が注目されることとなり、この問題の第一人者であり、大先輩である紀藤正樹弁護士によるオンライン講演会を実施することになりました。録画した動画を大阪大学CLEという授業支援サイトのコミュニティーに掲載したところ、視聴は好評のようです。コロナ禍での工夫ではありましたが、今後ともこのような試みを続けていきたいと思っております。



紀藤 正樹先生

2022年度卒業式・卒業修了祝賀会

2023年3月23日(木)、豊中総合学館にて法学部卒業式があり、法学部法学科より168名、国際公共政策学科より74名、計242名、法学研究科より37名の合計279名が卒業・修了されました。

法学部優秀賞の表彰に続き、2022年度の青雲懸賞論文および青雲キャリアチャレンジ賞の表彰が行われました。各受賞者には青雲会西尾会長から表彰状と賞金が授与され、卒業生の皆さんからの温かい拍手をもって祝福をいただきました。

表彰式のあと、会場を隣の講義室に移して卒業修了祝賀会が開催されました。今回はコロナ禍以前のような大規模な立食パーティーというわけにはいかず、着席形式、ノンアルコールでの開催となりましたが、多数の卒業生に参加していただきました。瀧口法学部長、林先生のあいさつに続き、しばしの和やかな歓談のあと、阪大グッズや先生方からご提供いただいた景品をめざしたビンゴ大会で大いに盛り上がりました。

この祝賀会は青雲会の主催ですが、企画、準備、当日の運営は法律相談部、法学研究会、国際法学研究会のサークルの在校生のみなさんにご協力いただき、おかげさまでアットホームな祝賀会を開催することができました。



「せいうんエンサポ!」について (青雲会事務局)

青雲会では2022年12月に準会員(在学生)向け就職支援の仕組みとして「せいうんエンサポ!」(青雲会 エンプロイメント サポート プロジェクト)を発足させました。

<https://www.seiunkai.net/student/index.html#ensupo>

「せいうんエンサポ!」は、まず在学生の訪問を受けてもよいと考えるOB・OGに名簿に登録いただき、在学生からの要望に応じてOB・OG訪問を実施いただくというものです。

正会員の皆様におかれましては、後輩の就職活動が順調に進められるよう、是非OB・OG名簿に登録くださるようお願いいたします。登録方法の詳細は青雲会事務局までお問い合わせください。



“青雲塾”で再発見!!

青雲塾担当 山西 雅人(30期)

昨年度の開催内容は以下のとおりです。講師の方からいただいた感想を掲載しております。今後も、会員・準会員の皆様のご参加をお待ちしております。 <https://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

第75回 2022年6月18日(土)

「大阪のおばちゃん」が見た「おっさん社会」

日本のあらゆる組織にある「閉塞感」をもたらしている原因のひとつが、「おっさん化」だと考えます。かつて、全日本おばちゃん党というFacebook上に作った団体では、「オッサン」を「ありがとう」「ごめんなさい」「おめでとう」が言えない人だと定義しました。オッサンと同義の女性を「オバハン」と呼び、対局が「おばちゃん」と「おっちゃん」としました。このたび、拙著『おっさんの掟—「大阪のおばちゃん」が見た日本ラグビー協会「失敗の本質」—』(小学館、2022年2月刊行)で、「オッサン」を「おっさん」として、年齢や性別に関わらないと定義しなおしました。今回は、私が体験した「おっさん被害」について触れながらお話をいたしました。先日、2022年世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数が発表され、相変わらず日本は先進国最下位(116位)をぶっちぎり独走状態です。こんな「おっさん社会」の日本に、明るい未来なんて無いのでは?と思います。このたびは、お招きいただき、ありがとうございました。



会場の大阪大学会館(旧イ号館)



谷口氏の話に聞き入る西尾会長

谷口 真由美 氏

法学者 大阪芸術大学客員准教授

第76回 2022年11月19日(土)

「大阪再発見 釜ヶ崎・飛田・新世界 大都市の光と影」

舟引 康之 氏(青雲会25期)

大阪SGGクラブ(Osaka Systematized Good-Will Guides Club)会長

今回歩きました、いずれの地域も明治・大正期をその出発点としているわけですが、特に戦後の出来事であり、1958年の売春防止法の施行、1961年の釜ヶ崎(あいりん)地区の暴動が、この3地域に与えた影響は悲しくもあり、また大変興味深い出来事でもあったと改めて感じました。いまや、釜ヶ崎(あいりん)地区は、かつての活気を失い、飛田はしぶとくその妖しい輝きを増しつつあり、新世界は完全に観光地としての地位を取り戻しています。

ご参加頂いた方々にその様相を感じて頂けたのであれば大変うれしく思います。私が生きた時代における、この地域の移り変わりを心に留めながら、現在の姿を観察することができ、大変感慨深い案内となりました。このような機会を与えて頂き、まことに有難うございました。青雲会・青雲塾の益々のご発展をお祈りいたします。



舟引氏による歴史解説



参加者の皆さん

第77回 2022年12月3日(土)

「『適塾』 大阪大学の原点」

松永 和浩 氏

大阪大学適塾記念センター准教授

大阪大学の卒業生を適塾にお迎えすることは、感慨ひとしおです。参加者に、かつて適塾記念会で塾生調査等を精力的に行ってきた故・芝哲夫先生(理学部)の授業で、公開(1980年)前の適塾を訪問された方がいらっしたこと、驚きました。昔の適塾、今の適塾。情報交換が出来ました。大先輩方(私は文学部2001年卒)との対話を広げ、深めてくれる適塾は、阪大にとってかけがえのない遺産であることを、再認識する機会となりました。



オフィスビルに囲まれた適塾



適塾内部で松永氏の説明を受ける

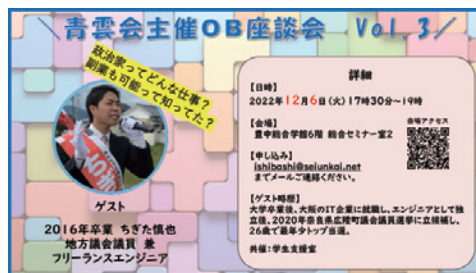
若手交流会報告

高橋 慶吉 (48期)

若手交流会では、OB・OGと学生が卒業後のキャリアについて語り合う座談会を開催しました。これは、OB・OGが学生と親しく、おしゃべり感覚でキャリアについて話す場が少ないという問題意識から、若手交流会の新たな試みとして一昨年度に始めたものです。2年目に当たる昨年度も、前年度と同じく座談会を2回開催しました。

1回目は、奈良県広陵町で議員として活躍されております千北慎也さん(64期)にお越しいただき、政治家としてのキャリアについて学生と語り合っていました。2回目は、弁護士の坂川雄一さん(47期)に講師役をお務めいただき、日ごろの弁護士としての活動について多くの質問に答える形でお話をいただきました。

一般的に同窓会は卒業生同士の活動に力を入れがちで、現役の学生との交流の機会をあまり多く持たないように思われます。その点、青雲会はさまざまな企画を通して、すでに学生との交流の機会を多く持っておりますが、座談会など若手交流会の活動を通してそれをさらに充実させ、学生とともに同窓会を盛り上げていければと考えております。



第3回座談会(2022年12月6日 千北 慎也 氏)



第4回座談会(2023年3月2日 坂川 雄一 氏)

青雲会囲碁同好会のご案内

気楽な雰囲気です。点数制でハンディをつけて棋力に関係なく楽しめます。ぜひ参加して、交流や棋力の向上を図ってください。

イベントでは他の同好会などの対局も楽しめるかも。ご参加の際は幹事に連絡いただくか、当日、受付で青雲会とお伝えください。

定例会(予定)

- 日時:令和5年5月20日(土) 13:00~17:00
- 11月18日(土) 13:00~17:00
- 令和6年2月17日(土) 13:00~17:00

場所:梅田囲碁センター

大阪市北区太融寺町6-8 阪急産業梅田ビル5階

席料:無料(青雲会から補助金が出ています)



- ・イベントにも奮ってご参加ください。
- 1月:新年囲碁会(全大阪大学・梅田囲碁センター)
- 8月:トーナメント大会(梅田囲碁センター、食事会)を開催しています(別途、参加費用をいただきます)。

連絡先 青雲会囲碁同好会幹事 銭尾 正和(せにおまさかず)まで TEL:080-7035-9285 E-mail:tennohikarihasubetehoshi@hotmail.co.jp

青雲会 ゴルフ同好会

山西 雅人 (30期)

<https://www.seiunkai.net/kouryu/golf/index.html>

コロナ禍における屋外での親睦行事として、ゴルフ同好会を約10年ぶりに再開しました。再開後第1回は2022年4月2日(土) センチュリー三木ゴルフ倶楽部(兵庫県三木市)にて、第2回は2022年9月24日(土)、第3回は2023年3月18日(土)に有馬富士カントリークラブ(兵庫県三田市)にて開催しました。3日も天気恵まれ、22期から58期の会員の皆さんがプレイを楽しみました。

今後も年2回、春と秋に開催する予定です。老若男女、巧拙問わず、皆さんのご参加をお待ちしております。



第1回 参加の皆さん



第2回 参加の皆さん



第3回 参加の皆さん

東京支部だより

東京支部長 西畑 一哉 (27期)



● 東京支部 連絡先

〒102-8336
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学
TEL 03-3261-1298
FAX 03-3261-1291

青雲会(大阪大学法学部同窓会)東京支部長の西畑一哉です。1979年3月に法学部を卒業、日本銀行勤務を経て2015年9月から九段にある二松学舎大学に籍を置いております。

東京支部の活動ですが、昨年5月には、東京待兼会の春季懇話会に共催参加し、大阪大学免疫学フロンティア研究センター招聘教授の宮坂昌之氏に「新型コロナはワクチンだけで防げるか」というテーマで講演をしていただきました。医療の現場から練り上げられた素晴らしいお話でした。

昨年12月には、青雲会東京支部主催(東京待兼会共催)で、新制29期の味岡桂三氏から「日本100名城ひと巡り」と題してオンライン講演をしていただきました。味岡氏は日本銀行出身で、現在UI銀行会長という要職に就き多忙を極められる中、既に日本100名城制覇を成し遂げ、現在日本200名城制覇に向けて着々と歩を進めていらっしゃいます。国宝の5城(姫路城、松本城、犬山城、彦根城、松江城)の話にはじまり、「お気に入り」という現存する最古の天守閣をもつ城である福井の「丸岡城」については故事来歴を含め詳しくお話いただきました。さらに北海道のアイヌ民族の城跡である「根室半島チャシ跡群」に関しては「地の果てのようで辿り着くのもなかなか困難だった」という興味深い話をしていただき、かなり盛り上がりました。



丸岡城(福井県)

新型コロナの蔓延は未だ収束を見ていませんが、5月連休明けにも新型コロナの感染症法上の分類がこれまでの2類からインフルエンザ並みの5類に変更となることが予定されているなど、徐々に日常生活に戻れる日が近づいているようです。今年こそは、オンラインではなく、対面方式での東京地区総会および講演会開催を企画したいと思っておりますのでよろしくお祈りします。なお、東京待兼会の春季懇話会(青雲会東京支部共催)は5月31日に18時から学士会館で開催する予定です。詳細は決まり次第メール等で連絡致します。

E-mail

支部長 西畑:k-nishih@nishogakusha-u.ac.jp
幹事長 篠崎:mitsuhiro.shinozaki@onoff.ne.jp

名古屋支部だより

名古屋支部長 中嶋 利幸 (19期)



● 名古屋支部 連絡先

〒466-0812
名古屋市中昭和区八事富士見1304
TEL & FAX
052-834-0607
E-mail
tosrom314@re.commufo.jp

名古屋地区では東海地方に在住の卒業生を対象として、経済学部同窓会と合同して『名古屋待兼会』を運営しており、60年ほどの歴史があります。会の主な活動は年4回の例会、11月に年次総会で、名古屋市内で食事と懇談を中心として会員の交流を深めるという内容で行ってきました。

ただ残念ながらこの三年間ほどはコロナ禍により休会を余儀なくされた時期がありましたが、一昨年11月には二年ぶりの総会(来賓なしで会員のみ小規模運営)を開催し、昨年はコロナ感染の状況を見ながら春までは再び活動を休止したものの6月、9月に例会、そして11月に母校から大学院経済学研究科副科長 山本千映教授をお迎えして従来の形式で総会を実施することができました。

今年は通常の活動を行っていくことを予定していますので、就職や転勤等で新しく東海地区に来られる方にもぜひ『名古屋待兼会』にご入会頂き、一緒に楽しく語りたいと思っています。

ご関心がおありの方は是非、左記の連絡先にコンタクト頂きますようお願いいたします。



今後の予定

- 例会 4月15日(土) 6月17日(土) 9月16日(土)
- 総会 11月18日(土) その他 ゴルフ会の再開も検討中

青雲会運営賛助金 ご芳名録

このたびは運営賛助金のご寄付を賜り誠にありがとうございます。

会員の皆様138名の方から、1,689,000円の運営賛助金のご寄付を頂戴致しましたのでご報告致します。
運営賛助金にご理解いただきご寄付を頂いた方々に感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。
(掲載を希望されない方につきましては掲載しておりません。)

心より感謝申し上げますと共に、引き続き青雲会活動への温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

青雲会会長 福田 健次

卒期	氏名	卒期	氏名	卒期	氏名	卒期	氏名
旧制1期～新制10期		新制18期	森内賢一	新制26期	角隆博	新制43期	萩原悦子
新制1期	米野元夫	新制18期	守屋雅美	新制27期	篠崎光宏	新制43期	森佳輝
新制2期	小野夏樹	新制19期	安藤徹児	新制27期	深川優一郎	新制44期	谷本美香
新制3期	白井淳二	新制19期	中山三千雄	新制28期	松村聡	新制45期	岡田智充
新制4期	中村英一	新制20期	南輝雄	新制28期	山口浩	新制45期	上地浩之
新制4期	松田節子	新制20期	森川泰秀	新制29期	在田正秀	新制45期	嶋津裕介
新制5期	魚谷博	新制21期～新制30期		新制29期	池尻和生	新制46期	加々山敬久
新制5期	中田耕三	新制21期	岩本明雄	新制29期	池堂芳郎	新制46期	木下威英
新制6期	安藤弘	新制21期	総山哲男	新制29期	那須裕之	新制46期	松尾吉洋
新制6期	福原耕	新制21期	上垣内康夫	新制29期	岩倉広修	新制47期	坂川雄一
新制7期	青木克夫	新制21期	牧野恒廣	新制30期	沖田拓司	新制48期	杉山健志
新制7期	大野洋	新制22期	堀本晃司	新制30期	眞田享	新制49期	本宮亜希子
新制7期	田中襄二	新制23期	置田文夫	新制30期	戸川恵雄	新制49期	後藤宏徳
新制8期	金平隆弘	新制23期	苅田俊幸	新制30期	藤井修治	新制49期	大山和伸
新制8期	若林崇	新制23期	松井繁幸	新制30期	三木秀夫	新制50期	門脇一史
新制9期	藤原勲	新制23期	松井直樹	新制31期～新制40期		新制51期～新制60期	
新制9期	山蔭克己	新制24期	梅原保	新制31期	川村雅志	新制52期	藤原幹也
新制10期	小泉靖雄	新制24期	岡本靖	新制31期	永田朗	新制54期	向井大輔
新制10期	小浜正幸	新制24期	片岡和行	新制31期	瀧口剛	新制56期	畔山亨
新制10期	中江伸	新制24期	鈴木浩	新制31期	友田公一	新制61期～	
新制11期～新制20期		新制24期	南紀子	新制32期	田中聡	新制61期	坂本大地
新制11期	荒西宏保	新制24期	能勢治彦	新制32期	西田博昭	新制63期	藤本和弘
新制12期	白賀洋平	新制24期	森宏司	新制32期	下村眞美	新制64期	大澤俊平
新制12期	三瀬裕二	新制24期	森信静治	新制32期	幸寺覚	新制64期	後友香
新制13期	山口勝之	新制24期	矢部恒夫	新制33期	紀藤正樹	新制67(9月卒)期	若林直子
新制14期	永渕弘幸	新制25期	明里一平	新制36期	青山晶彦	新制68期	田中駿行
新制14期	松本峻	新制25期	加子栄一	新制36期	新谷俊彦	大学院修了(入会)	
新制15期	今城功勝	新制25期	木村清志	新制37期	相部康志	司法18期入会	石橋寿夫
新制15期	中川清孝	新制25期	小嶋徹	新制38期	奥田雅英	(敬称略)	
新制15期	林宏中	新制25期	常陰均	新制39期	鬼崎はじめ	2023年3月31日現在	
新制15期	原田雅男	新制25期	床谷文雄	新制39期	珍坂雄一郎		
新制17期	田部雅晴	新制25期	西尾公一	新制39期	寺澤真由美		
新制17期	松本收司	新制25期	舟引康之	新制39期	森優		
新制17期	吉川直樹	新制25期	細井正弘	新制39期	山崎弥生		
新制18期	黒田嘉次郎	新制25期	山本貢	新制40期	尾中正史		
新制18期	佐々木亮	新制26期	佐藤建	新制41期～新制50期			
新制18期	竹森正孝	新制26期	鈴木寿雄	新制43期	川村慎哉		

活躍する卒業生I



鳥取発 女性活躍のすすめ

地方独立行政法人 鳥取県産業技術センター 理事長

高橋 紀子 (30期)

皆さんは鳥取県と聞いて何を思い浮かべますか。「スタバはないけどスナバはある」など、ダジャレで鳥取をPRしている平井伸治知事が近年有名ですが、実は、女性活躍で全国をリードしているのです。

2022年の調査によると都道府県庁で女性の管理職割合は22.7%で全国一(全国平均12.7%)、部局長・次長級の割合も19.8%で、多くの女性幹部が様々な分野で政策決定に関わっています。男性の育児休業取得率も44.3%と全国一。時間外勤務も減り、職場環境も良くなり、オープンな組織になりました。

私は、県の地域振興部長、統轄監を勤め、3年前に退職しましたが、県にいた当時、マスコミや大学の研究者の方から、日本では女性の管理職登用がなかなか進まない中、鳥取県ではなぜ登用が進んでいるのかと取材を受けることが多くありました。青雲会の皆様は、各界の中核として活躍しておられる方が多いと思いますので、ヒントになればご紹介させていただきます。

私が阪大を卒業したのは、男女雇用機会均等法成立の3年前。一生働きたいと公務員になりましたが、採用された大卒女性行政職は一人。当時は男社会で深夜残業は当たり前。女性職員だけにお茶当番があり、多くの女性は庶務的な仕事で、子育てと仕事の両立のための環境も整っていませんでした。

これが変化したのは、1999年に就任された片山善博前知事の時。「男女の差は能力でなく経験によって作られる、女性に庶務以外の経験をさせるように」と号令され、財政課初の女性主計員も誕生しました。また審議会委員も女性を4割以上とし、これにより議論が活発化し、民間女性の活躍の場も広がりました。2007年に就任された平井伸治知事も、「ポストは人を育てる」と女性幹部を積極的に登用し、政策決定に関わる女性部長や課長が増え、組織風土が大きく転換しました。「トップの強い意志」は何より重要です。

そして、もう一つの大きな要因は、「女性のネットワーク」です。1980年頃、初めて係長になった女性たちが「たくみ会」という勉強会をつくれ、私も係長になった時に参加し、そこでロールモデルとなる女性に出会いまし

た。初の女性部長となったその方は、いつも気にかけて励ましてくださいましたが、「自分に感謝しないでいいから後輩女性に同じようにしてあげてね」と「恩送り」という言葉を私たちに託されました。その意思是後輩女性へと順に伝えられ、そのネットワークが各人の心の支えとなっています。

私は今、鳥取県産業技術センターに勤務していますが、研究者の分野も女性が少ないため、昨年全国の公設試験研究機関と県内大学、企業の女性研究者を集めた「公設試等女性研究者技術交流会」を鳥取で開催したところ、とても盛り上がりました。

女性のもとより、多様な感性と経験を持つ人たちが議論することは、組織の活性化やイノベーションにつながります。女性活躍は社会にとって必要不可欠であり、様々な分野において女性にステップアップのチャンスが広がり、意思決定の場に女性が増えるのを願っています。

最後に、女性の会と並んで、私の県庁人生を支えていただいたのが阪大出身県職員の集まり「待兼会」でした。実学重視の阪大らしく、明るく、行動力のある先輩後輩にずいぶん助けられました。人のつながりを大切に、阪大卒業生として、今後も何か社会に役立つことができたいと思っています。



県統轄監時代、北東アジア地域協力地方政府首脳円卓会議で知事代理としてスピーチ(2019年、中国吉林省)

活躍する卒業生Ⅱ

ウルトラマンか宇宙飛行士か
総理大臣か

奈良県広陵町議会議員/フリーランスエンジニア 千北 慎也 (64期)



2018年12月28日、前職の納会にて盛大に送別会を開催いただき、縁あって入社したIT企業を退職しました。それは、2019年の統一地方選挙に地元から出馬し、「地方から日本を変えてやろう!」という熱い志があつてのことでした。

しかし、なんと地元広陵町の町議会議員選挙は統一地方選挙の一年後、2020年であり、選挙に落選したわけでもないのに、無職のただの人になってしまったところから、私の政治家人生はスタートしました。

政治家を志したきっかけは、小学生のときの母親とのやりとりです。ヒーローが大好きだった私は変に現実的なところがあり、母に「ウルトラマンみたいにたくさんの人を助けられる偉い人はだれか」と聞いたところ「天皇陛下か総理大臣ちゃうか。天皇陛下はなられへんけどな」との答え。今思えば、他にも選択肢あるやろ!とツッコミたくなるような回答ですが、政治家はたくさんの人を助けられる仕事なのだと思えました。

中学生になり、進路に悩みました。宇宙飛行士になり、誰も行ったことがないところへ行ってみたい。そんな中学生らしい夢を抱いていたところ木村拓哉さん主演の「CHANGE」というドラマが放送されました。小学校教師出身の政治家、木村拓哉扮する朝倉啓太が当たり前の民間の感覚を訴え、総理大臣にまで上り詰め、政治や国を変えていく。小さいときに抱いたHEROのイメージはこれだと強く感じ、政治家の道に進むことを決意しました。キムタクは偉大です。

2019年はシステムエンジニアとして開業し、なんとか食いつなぎ、そして、2020年4月5日、1,630票という大きな期待を寄せていただいて、広陵町議会議員選挙に26歳でトップ当選させていただきました。人口3.5万という小さな町の議会では、私の次に若い議員は父と同年。一番年長の議員は祖母と同年です。先輩方に可愛がっていただきながら日々活動を行っています。

力を入れている政策は、地場産業の振興、行政のデジタル化、そして、教育です。私のまち広陵町は「くつ下の町」として日本一の靴下生産量を誇ります。町としてどのように発信していくのか、販路拡大のために必要な施

策は何か。ときにはSEとして、地域の事業者のみなさまと日々意見を交わしています。また、行政のデジタル化では、実務経験が大きく役に立っており、公式LINEを活用した町民への情報提供や、町民からの情報収集など、すぐ具体化できた施策もあります。さらに、未来を担う子供たちには将来の様々な選択肢を選ぶためのきっかけづくりが必要だと考えています。GIGAスクール構想により、1人1台のタブレットが配布され、インフラは整っておりますので、アイデアがあれば多様な機会や経験を子供たちに提供することができます。

政治家としての情報発信や同世代議員とのネットワーク作りにも力を入れています。広報活動としては、YouTubeはじめSNSでの活動の発信や年4回の活動報告チラシの配布を行っています。そして、「関西若手議員の会」という団体の活動を通じ、各地域でともに戦う仲間達と学び合い、交流を深めています。

私は地方を元気にすることが日本を立て直すことに繋がると信じています。まだまだ駆け出しですが、たくさんの人を助けられるヒーローになれるように研鑽を続けてまいります。

同窓生のみなさまと総会等を通じて意見交換をさせていただけることは、私にとって非常に貴重な学びの機会となっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



街宣車を使わず、自転車で選挙活動を行う

2022年度青雲会行事等報告

月	日	曜	行事等
2022年	4	1	金 高等司法研究科1年生オリエンテーション(於:大阪大学豊中キャンパス)
		2	土 第1回ゴルフ同好会
		26	火 2022年度青雲会会報発行
		28	木 第1回幹事会(メール審議)
6	9	木 第2回幹事会(於:大阪大学豊中キャンパス)	
	18	土 第75回青雲塾(於:大阪大学豊中キャンパス大阪学会館)	
7	16	土 青雲会総会(於:大阪新阪急ホテル)	
9	8	木 第3回幹事会(於:大阪大学豊中キャンパス)	
	24	土 第2回ゴルフ同好会	
	30	金 青雲キャリア支援基金第1回運営委員会(メール審議)	
10	17	月 青雲懸賞論文募集開始(2023年1月12日締切)	
11	19	土 第76回青雲塾(於:釜ヶ崎・飛田・新世界)	

月	日	曜	行事等
2022年	12	3	土 第77回青雲塾(於:適塾)
		6	火 第1回若手交流会(於:大阪大学豊中キャンパス)
		8	木 第4回幹事会(於:大阪大学豊中キャンパス)
2023年	2	14	火 第5回幹事会(於:大阪大学豊中キャンパス)
	3	2	木 第2回若手交流会(於:大阪大学豊中キャンパス・オンライン併用)
		3	金 青雲懸賞論文審査結果発表
		18	土 第3回ゴルフ同好会
		23	木 卒業式・青雲懸賞論文表彰式 青雲キャリアチャレンジ賞表彰式 卒業修了祝賀会

2022年度決算報告と2023年度予算(案)

2023年度 青雲会役員体制(案)

任期: 2023年4月1日~2025年3月31日

(概要)

収入の部			支出の部		
項目	2022年度 決算	2023年度 予算	項目	2022年度 決算	2023年度 予算
会費収入	4,808	5,300	総会費	338	1,025
懇親会収入	0	533	会報費	2,616	2,800
運営賛助金収入	1,689	1,600	ソフト保守費	495	495
その他収入	106	111	支部助成金	350	350
			ローリング助成金	100	100
			一般助成金	149	200
			懸賞事業費	363	380
			司法基金援助金	300	300
			塾・部活動費	80	100
			若手交流会	20	20
			人件費	647	700
			その他経費	1,107	1,074
収入計	6,603	7,544	支出計	6,565	7,544

収支差額		
	2022年度 決算	2023年度 予算
収支差額	38	0
前期繰越金	5,065	5,103
次期繰越金	5,103	5,103

※本案は総会でご審議いただきます。

役職	氏名	期	担当(*:主担)
名誉会長	武田 邦 宣		
会 長	福 田 健 次	29期	
副 会 長	三 木 章 平	30期	・財務*・青雲懸賞論文*・組織強化(正会員)
副 会 長	山 西 雅 人	30期	・青雲塾* 交流促進* キャリア支援*
副 会 長	西 田 博 昭	32期	・総会・財務・組織強化(正会員)*
副 会 長	稲 田 正 毅	46期	・青雲懸賞論文(審査)・財務・組織強化(正会員)
副 会 長	坂 川 雄 一	47期	・若手交流会・総会*
副 会 長	高 橋 慶 吉	48期	・総会・青雲塾・若手交流会*
副 会 長	地 神 亮 佑	58期	・青雲懸賞論文・WEB管理*・組織強化(準会員)
副 会 長	千 北 慎 也	64期	・若手交流会・組織強化(準会員)*・WEB管理
幹 事	(各 期)		
	うち特に担当を委嘱する幹事		
	西 畑 一 哉	27期	・懸賞論文審査
	松 田 邦 夫	28期	・懸賞論文審査
	末 澤 豪 謙	32期	・懸賞論文審査
	稲 田 正 毅	46期	・懸賞論文審査
	木 村 真 也	46期	・懸賞論文審査
	堀 木 由 紀	46期	・懸賞論文審査
会 計 監 事	西 村 元 昭	14期	
会 計 監 事	松 本 綾	40期	

※副会長は今後増員予定につき確定後総会で報告いたします。

事務局

事務局 長	西 尾 光 代	30期
-------	---------	-----

事務局からのお知らせ

「会報誌のペーパーレス化について」アンケートご協力をお願い

現在青雲会では、会報誌のペーパーレス化について検討いたしております。
つきましては、来年度からの会報誌郵送の要・不要につきアンケートを実施いたします。
青雲会ホームページ(<https://www.seiunkai.net>)にアンケート回答フォームを公開しておりますので、こちらからご回答くださいますようお願い申し上げます。
ご協力のほどよろしくお願いいたします。

※ホームページ「資料室」への会報誌(PDF)の掲載につきましては、従来通り続けてまいります。

「年会費・運営賛助金のクレジットカード払いについて」

年会費および運営賛助金につきましては、青雲会ホームページの「会員専用サイト」でのクレジットカード払いがご利用いただけます。振込手数料がかかりませんので是非ご利用ください。
(「会員専用サイト」のご利用には、皆様にお知らせしております個人IDとパスワードが必要です。)